

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	えま2nd		公表日 令和8年 3月 23日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容に応じて、配置を変えたりしながら、子どもたちが落ち着いて活動できる環境づくりを心がけています。	活動内容や利用児の特性によっては、スペースに余裕が感じにくい場面があるため、今後は物の配置の見直しや物品整理を行い、より有効に空間を活用できるよう検討していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			応援体制や人員確保の方法について検討し、より安定した職員配置が行えるよう検討していきます。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもが見通しを持って活動できるよう、動線や活動スペースを意識し、わかりやすい環境づくりに努めています。また、安全確認を行いながら支援を実施しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		日常的な清掃や消毒を行い、衛生面の維持に努めています。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			スペースの使い方や環境設定を見直し、より安心して個別対応が行える環境づくりを検討していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に会議を実施し、業務上の課題や改善点について意見を出し合う機会を設けています。職員全体で情報共有を行い、業務改善に対する共通認識を持てるよう努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			評価表以外でもご意見を頂きやすい環境を作っていけるよう工夫していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			会議では主に業務内容が中心となっており、個別の悩み等に対して職員が安心して意見表出ができる機会や方法について検討していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は実施していません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修や外部研修への参加の機会を確保しています。研修で得た学びを職員間で共有し、日々の支援や業務に活かせるよう努めています。	研修で得た知識を、より実践的に業務へ反映できるよう、振り返りや共有の方法について検討していきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントに時間を多くとるようにしています。面談やアンケートにて、保護者の方のニーズを把握できるよう努めています。	子どもや保護者のニーズや課題、変化を計画に反映できるよう、引き続き質の向上を図っていきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に子どもの支援に関わる職員が情報共有を行っています。話し合いの場では、職種や立場に関わらず意見を出し合えるよう配慮しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画に沿った支援内容、記録方法を行い、統一した支援を実施できるよう工夫しています。	利用児に対して担当のスタッフが決まっていないため、どのスタッフが支援しても目標達成計画が共有できるよう、打合せを念入りに行っています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の支援の中で、行動観察や関わりを通して、こどもの状況を継続的に把握しています。職員間で内容を共有し、支援や計画作成に活かしています。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			各支援項目について、より具体的で分かりやすい内容になるよう質の向上に努めていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		季節に応じたイベント、音楽、遊び及び創作物を企画しています。	活動プログラムの検討や振り返りの機会を充実させ、支援内容の質の向上に努めていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員間で意見を出し合いながら、活動の幅を広げられるよう取り組んでいます。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		活動の内容や参加方法について柔軟に調整し、無理のない形で支援が行えるよう努めています。	こどもの変化に応じて、活動内容や支援計画を適切に見直ししながら、支援の質の向上に努めていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝、活動内容、役割分担、支援内容等確認しています。当日だけでなく前回の内容も合わせて共有しています。	時間的な制約があり、十分な打ち合わせを行えない場合があるため、確実な打ち合わせ方法の工夫を検討します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援中に気付いた点やこどもの様子について共有するよう努めています。	日頃から一日の振り返りの中で気付いた点があれば、スタッフ間でミーティングをし、共有事項としています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録内容をもとに振り返りの機会を設け、支援の検討や改善につなげています。	職員間で記録内容や記載方法にばらつきが出ないように、整理や統一を図っていきます。
関係機関や保護者との連携	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、こどもの状況について確認、支援内容の見直しを行っています。職員間で情報共有を行い、支援内容の統一を図っています。	モニタリングの内容や記録について、より分かりやすく整理し、適切な見直しが行えるよう努めていきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		こどもの状況をよく理解している職員が参画し、日頃の支援の様子を共有しながら連携を図っています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、関係機関と情報共有や担当者会議を行い、支援につなげるよう努めています。	今後も、より円滑な情報共有や協力体制の充実を図り、関係機関との連携強化に努めていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて電話等で情報共有しています。実際に見学していただいたり、書面で情報共有することもあります。	保護者を通して他の施設からの申し出があった時のみ共有しています。保護者の方にもそのようなニーズに対応していることをお伝えしていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		移行時には、それまでの支援内容について必要に応じて、情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて情報共有や相談を行い、助言を受けるなどの連携を図っています。	スーパーバイズや研修を受ける機会が限られているため、今後は連携を深め、必要に応じて助言や研修を受けられる体制づくりに努めていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後、利用児の体調等慎重に観察し、実施を検討します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		必要に応じて電話連絡や面談を行い、子供の状況やケアについて共有しています。フィードバックの際に様子等を聞くように意識しています。	今後は気軽にお声がけ頂けるような雰囲気を作っていくよう意識していきます。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		家族支援プログラムや研修の機会については十分に提供できていないため、今後は家族支援に関する情報提供や、研修機会の確保について検討していきます。

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に詳しく説明をし、重要事項説明書の中で詳細を説明するほか随時質問も受け付けています。	今後も、保護者が安心して利用できるよう、説明方法について工夫を重ねていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談を通して意向を確認する機会を設けています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書を示しながら支援内容を説明し、保護者の同意を得ています。不明点があれば、その都度説明を行うよう心がけています。	今後も、保護者がより理解しやすい説明となるよう、説明方法の工夫に努めていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて面談や助言、支援を行っています。	今後も、保護者が相談しやすい環境づくりを意識し、より丁寧な対応が行えるよう努めていきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	父母の会や保護者会といった形での開催は行っていませんが、行事の際には、保護者やきょうだいの参加を歓迎し、交流の機会となるよう配慮しています。	定期的な保護者同士やきょうだい同士の交流の場は設けられていないため、今後は行事等を通じた交流のあり方について、保護者の意向に配慮しながら検討していきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談については随時受け付けていることを周知し、相談や苦情があった場合には、迅速かつ適切な対応を行うよう努めています。	苦情窓口を設置しており、その内容については重要事項説明書に詳細を記載し、契約時に丁寧な説明を行っています。今後も保護者が相談しやすい体制の維持と周知に努めていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的におたよりを発行するとともに、必要に応じてHPやSNS等を活用し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信しています。	情報発信の方法や頻度については、より分かりやすく伝えられるよう、今後も工夫を重ねていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いに十分留意し、適切な管理に努めています。	今後も、個人情報の適切な管理が徹底されるよう、職員への周知や確認を継続してまいります。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもの特性に応じた言葉かけや伝え方を工夫するとともに、保護者とは連絡帳や送迎時のやり取りを通じて、日常的に情報共有を行っています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域の方をお呼びして行事等は行っておりません。今後、検討します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、職員に対して内容の周知を行うとともに、発生を想定した訓練を実施しています。	事業所内での共有には努めていますが、保護者の方には閲覧用マニュアルの設置を検討してまいります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備えて、定期的に避難訓練等を実施しています。	今後も、訓練内容の見直しや職員間で共有を行い、より実践的な対応ができるよう努めてまいります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		必要に応じて保護者に確認を行い、職員間で情報を共有しています。	今後も情報の更新漏れがないよう、定期的な確認と記録の見直しに努めてまいります。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのある子どもについては、保護者に医師への確認を行ってもらい、その内容をもとにアレルギーの状況や注意点を把握し職員間で共有しています。	医師の指示書の提出については今後の課題とし、必要に応じて取得や確認方法について検討し、より安全な対応が行えるよう努めてまいります。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修や訓練を通じて安全管理を意識した支援を行っています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取組内容について、必要に応じて保護者へ説明を行っています。	今後は、より分かりやすい形での周知を行い、家族との連携をさらに深めていけるよう努めてまいります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事案を事業所内で共有し、再発防止に向けた対応について職員間で検討しています。	今後も共有方法や振り返りの機会を工夫し、再発防止の取組を継続してまいります。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に研修を行っています。	今後も研修などで理解を深めてまいります。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		虐待防止委員会において判断基準を定め、子どもや保護者へ事前に説明し、同意を得た上で個別支援計画書に記載しています。	今後も、身体拘束に関する理解を深めるとともに、必要最小限となるよう職員間でお共通理解と検討を重ねてまいります。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	えま2nd
------	-------

公表日 令和8年 3月 23日

利用児童数 4名

回収数 3名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3					当事業所では、法令に基づくスペースを確保し、日々の清掃や環境整備を行うとともに、利用児の年齢や人数、活動内容に応じて配置を工夫し、安心して過ごせる環境づくりを行っています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3					今後も適切な職員配置を心がけながら、安心してご利用頂ける支援体制を大切にしていきたいと思います。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3					利用児一人ひとりに配慮し環境整備や情報伝達等への工夫を行っています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3				いつも綺麗に清掃されていて清潔感があります。	清潔で、心地よく、活動に合わせた環境づくりを大切にしています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3					こども一人ひとりの特性を大切にしながら、支援の提供を行っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3					今後も、こども一人ひとりを大切にしながら、ニーズに応じた計画書作成と支援を行っています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3					ガイドラインの内容を踏まえて、支援計画を作成しております。今後もより充実した支援を提供できるよう工夫してまいります。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3					今後も、こどもたちの興味や成長に合わせて、活動内容が固定化されないよう工夫を重ねていきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1				2	地域の行事等に参加し、交流の機会を持てるよう努めます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	1			1	保護者の皆様にとって身近で気軽に相談できる事業所でありたいと思っております。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	3					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3					必要なサービス等についてなど、情報提供できることを増やしていけるよう努めます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					今後も、こどもや家族の思いに寄り添った関わりを大切にしていきたいと思います。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2		1			
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	3					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3					今後も、子どもや保護者との丁寧なコミュニケーションを大切にしていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3					保護者の方々からいただくお話をとても参考にさせていただいております。今後も情報共有させていただけると幸いです。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3					今後も、個人情報の適切な管理と取扱いに十分留意します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1			2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2			1		非常時の対応について、事業所と保護者が共有できるように情報発信と丁寧な説明をしていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3					非常時の対応について、事業所と保護者が共有できるように情報発信と丁寧な説明をしていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	3					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	3					
	29	事業所の支援に満足していますか。	3					今後も、子どもたちが安心して楽しく過ごせる支援を行っていきます。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えま2nd		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境整備・人員配置	利用児一人ひとりの体調や特性に応じて、環境整備や人員配置を行い、職員間で日々情報共有を図りながら、安心して過ごせる支援環境づくりを意識して取り組んでいます。また、必要に応じて加配を付け、他施設とも連携しながら柔軟な支援体制を整えています。	利用児の状態変化に応じた支援が行えるよう、情報共有の方法や人員配置について定期的な見直しを行い、より柔軟で安定した支援体制の構築に取り組んでいきます。
2	一人ひとりに応じた支援の提供	連絡帳や送迎時のやり取り、保護者との日常的なコミュニケーションを通じて利用児の状況把握に努め、職員間で共有することで、個性を重視した支援を行っています。活動内容についても固定化せず、利用児の状況や興味・関心に応じた工夫を意識しています。	利用児の状況や変化を職員間で丁寧に共有し、個別支援計画を踏まえた関わりや活動内容の工夫を継続することで、より一人ひとりに応じた支援の充実に取り組んでいきます。
3	こどもおよび保護者との信頼関係	日々の関わりを丁寧にいき、支援内容や利用児の様子について分かりやすく伝えることを心がけています。保護者からの相談や意見にも柔軟に対応し、信頼関係の構築を意識した関わりを継続しています。	保護者との日常的なコミュニケーションを大切に、利用児の様子や支援内容を丁寧に伝えるとともに、相談しやすい関係づくりを意識することで、信頼関係を基盤とした支援の充実を図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会の確保	利用児の体調が安定しない場合も多く、外出や地域交流の機会を十分に設けることが難しい状況があります。そのため、地域との関わりが限定的になっている点が課題と考えています。	利用児の状況に配慮しながら、無理のない範囲で地域とのつながりを持てる方法を検討していきます。
2	家族支援の充実	保護者同士が交流できる機会が少なく、情報共有や相互支援につながりにくい状況があります。家庭ごとのニーズの把握や支援の幅を広げる点においてさらなる検討が必要と考えています。	保護者や利用児のニーズを踏まえた家族支援の在り方について職員間で検討を重ね、必要に応じて交流の機会や情報提供の場を設けていきます。
3	非常対応に対する保護者への周知	施設内での訓練や対応体制は整えていますが、保護者への説明や情報提供が十分に行き届いていない面があり、理解を深めてもらうための工夫が必要と考えています。	非常時の対応や訓練内容については、連絡帳やおたより、ホームページ等を活用し、保護者への周知方法を工夫していきます。また、必要に応じて説明の機会を設けるなど、保護者の理解が深まるような周知方法の見直しを進めていきます。